

令和3年度 学校経営計画



杉並区立杉並第十小学校
校長 山口 京子

杉並区教育ビジョン2012
「共に学び共に支え共に創る杉並の教育」

目指す人間像

- 夢に向かい、志をもって、自らの道を拓く人
- 「かかわり」を大切にし、地域・社会・自然と共に生きる人

【育みたい力】

- 1 自分の持ち味を見つけ、自ら学び、考え、判断し、行動する力
- 2 変化の時代をとらえ、たくましく生きる心と体の力
- 3 豊かな感性をもち、感動を分かち合う力
- 4 他者の存在を認め、多様な考えを結ぶ力
- 5 持続可能な社会を目指し、次代を共に支えていく力

◆杉並区教育ビジョン2012に掲げられた人間像を目指し、5つの力を育むために、目指す子ども像を下記のように捉え、本校の教育活動を展開する。

◆全ての教育活動の基盤は「安心・安全」であることを常に念頭に置き、保護者・地域と共に教育活動を展開し、「か・が・や・き」の子を育てる。

子どもが輝く学校

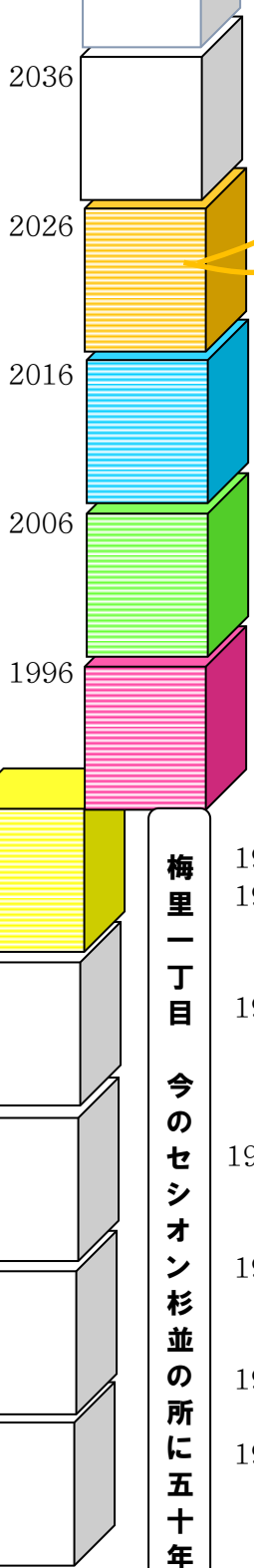
- ◎かながえる子・・・進んで考え、周りの人と共に学びを深める子
- がんばる子・・・目標に向かって、一人で、そして周りの人と共に努力をする子
- やさしい子・・・周りの人や自然を大切にし、自分にできることをしようとする子
- きたえる子・・・くじけずに、体も心も強くなろうとする子

現在→未来の杉十小を「もっと地域と共にある学校」に

コミュニティ・スクールとなった杉十小が果たすべき役割

- 1 杉十小の「安心・安全」についての稀有な歴史や背景、これまでの取組を児童・地域や保護者の方と共有し、地域全体の理解を促進するための努力を続ける。
- 2 「か・が・や・き」を実現する学び、地域や学校に愛着や誇りをもてる学び、他者と協働して次代を支えることにつながる学びを、地域や保護者と共に創造する。
- 3 時代の変化に応じて、児童が安心・安全に学校生活を送ることができる体制作りを、一層推進する。

そして未来へ・・・和田三丁目



2020 新型コロナウイルス感染症の感染拡大
 2017 コミュニティ・スクールに指定 蚕糸の森研究所発足
 2016 創立80周年移転30周年「50+30=80」

2008 転落事故

2004 杉十サポーターによる安全の見守り
 (2001 大阪府 池田小での児童殺傷事件)

1986 門も塀もない学校防災公園に
 蚕糸の森公園開園

1980~1986 移転に向けての準備
 1976~1980 移転に関わる運動→移転の決定
 蚕糸試験場の移転が決定

1972 二重窓・空気清浄機・冷房機を付ける
 大気汚染・騒音による児童の健康被害

1964 環状七号線完成

1956 環状七号線建設開始 校地がけずられる

1948 焼け跡に校舎が建つ

1945 空襲で校舎が焼ける

学校施設内で
 子供の命を守る
 安心・安全

校舎内への
 侵入を許さない
 安心・安全

地域住民の
 避難場所としての
 安心・安全

木々に囲まれた
 よい環境で学ぶ
 安心・安全

梅里一丁目
 今のセッション杉並の所に五十年

1986
 1976
 1966
 1956
 1946
 1936

1 教育目標を達成するための基本方針

- ◎コミュニティ・スクールとして、本校の「**安心・安全**」についての稀有な歴史や背景、これまでの取組を児童・地域や保護者の方と共有し、学校を含めた地域全体の理解を促進するための努力を続ける。
- ◎新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、「**できることを考える**」を合言葉に、教育活動の精選・工夫・改善を図る。
- ◎主体的・対話的で深い学びを目指し、**学びを個別・多様にする**ことで学習者主体の学びが実現できるようにする。特に、「**か・が・や・き**」を実現する学び、**地域や学校に愛着や誇り**をもてる学び、**他者と協働して次代を支える**ことにつながる学びを、地域や保護者と共に創造する。（かんがえる子）
- ◎蚕糸の森公園に関わる学習を「**蚕糸の森研究所**」として各学年に位置付け、保護者・地域の方と共に地域の自然、防災機能、歴史等を学ぶ。児童に、**自分たちの住む地域への愛着や、地域住民として地域を大切に、自らできることをしようとする心情**を育てるとともに、地域や保護者の方にとっても地域への理解を深める機会となるようにする。（かんがえる子）
- 自己及び集団の目標に向けて懸命に努力する**力を身に付けさせる。（がんばる子）
- 児童が安心して過ごせる学校づくりを推進し、多様な人との交流活動、ボランティア活動等を通して、社会の一員としての**望ましい人間関係を形成し、社会に貢献しようとする態度**を育てる。（やさしい子）
- ことばの教室（言語障害通級指導学級）における体験授業、すぎじゅう教室（特別支援教室）の理解啓発等を通して、インクルーシブ教育を推進する。
- 運動に親しむと共に、健康の保持増進と体力向上を目指す。食育・保健指導の充実を図り、**心も体もよりたくましくより強くなろうとする姿勢**を身に付けさせる。（きたえる子）
- 第3～6学年有志児童による音楽教室を実施し、合唱の楽しさを味わわせるとともに、発表の場への積極的な参加を通して、自己有用感を育てる。

2 指導の重点

(1) 各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動

ア 各教科

- 主体的・対話的で深い学びを実現するために、**問題解決の過程を重視した学習者主体の授業**を実施する。**教科特有の見方・考え方**を働かせ、3つの資質・能力を身に付けられるようにする。
- 日常的にICTを活用する等の指導方法の工夫・改善を図るとともに、**児童が主体的に一人1台専用端末を活用して個別最適な学び、協働的な学びが実現**できるようにする。
- 「基本図書（よんでみいな）」を活用して**読書活動を充実**させるとともに、**学校図書館を学習センター**として機能させ、調べ学習等の充実を図り、組織的・計画的に学校図書館を運営する。
- 体育の授業改善**や**運動月間**を通して、意図的・計画的に体力向上を図る取組を推進する。一校一取組として、長縄跳びを行い、運動の日常化を図る。養護教諭、食育リーダーが中心となり、**健康教育・食育**を充実させる。
- 第5・6学年の外国語科では、教科書等の教材を活用し、JTE・ALTと連携して基礎期の指導を行う。他教科とも関連をもたせて学びながら、基礎的にコミュニケーションの力を培うことを重点とする。

- 児童自身が自分に必要な学びを選んで取り組む「**新かがやきの時間**」(パワーアップ教室)を月に1回設定し、主体的・意欲的に学ぶ習慣付けとなるようにする。

イ 道 徳

- 6月18日を「いのちの日」と位置付け、校長講話**を行う。「いのちの教育月間」には、全校でいのちについて考える場を設定するとともに、**全学級で「生命尊重」の価値項目の授業**を行い、生命を大切にすることを育てる。
- 「いじめ防止基本方針」の確認、周知を行い、いじめを「しない、させない、ゆるさない」学校づくりを推進し、児童が道徳の授業や日常生活の中で、教員や保護者とともに「いじめ」について考える場を設定する。

ウ 外国語活動

- 外国語による**コミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ**、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育てる。
- 第3・4学年の外国語活動では、『すぎなみ9年カリキュラム(外国語教育編)』との関連を考慮しながら、『Lets try!』を活用して入門後期の指導を行う。第1・2学年では、『すぎなみ9年カリキュラム(外国語教育編)』や『すぎなみ外国語活動レッスンプラン集』を活用し、入門前期の指導を行う。

エ 総合的な学習の時間

- 「**課題の設定⇒情報の収集⇒整理・分析⇒まとめ・表現**」という**探究のプロセスに沿った学びの構造転換を図り、学習者主体の学び**が展開できるようにする。
- 各教科等で身に付けた知識や学習方法を活用できるよう**カリキュラムマネジメント**の視点で全体計画を見直し、本校が蚕糸の森公園にあるという立地や環境の特色を生かした「**蚕糸の森研究所**」の**学習を、保護者・地域の方と連携**して創造する。

オ 特別活動

- たてわり班遊び、蚕糸の森公園での野外給食を通して、**集団への所属感や連帯感**を深める。
- 蚕糸の森公園の清掃活動を通して、異学年交流を深めるとともに、**JRC(青少年赤十字活動)の一員としてのボランティア精神**を養い、地域の環境を守ろうとする態度を育てる。
- 委員会活動、クラブ活動、学校行事への取組を通して、個性の伸長を図りながら、協力してよりよい学校づくりに参画しようとする自主的・実践的な態度を育てる。
- 年2回のQ-Uテストの実施と結果の活用**を通して、児童の自己肯定感や所属意識等の状況を把握し、児童理解や望ましい人間関係の形成を促す学級指導に生かす。
- 高南中学校生徒会と共に行う小中合同あいさつ運動、高南祭、小中未来サミット等を通して、**地域でのかかわりをつながりをもって活動する達成感**を味わわせる。/

(2) 生活指導、安全教育、キャリア教育

ア 生活指導

- 「**杉十のあした**」(「あ」あいさつ「し」静かに行動「た」タイムを守る)を合言葉に、「杉十スタンダード」を組織的に指導し、規範意識を高め、生活習慣を身に付けさせる。

- 新型コロナウイルス感染状況に応じて、**校内の感染防止対策を随時見直し、周知・徹底**を図る。
- 「杉並区いじめ防止対策推進基本方針」に基づき、学校いじめ防止対策基本方針を定め、**いじめの定義を理解し、未然防止、早期発見、早期解決、重大事態への適切な対応**に努める。
- 不登校、校内外での悩みや問題行動に対して、的確に対応できる**校内指導体制**を整えるとともに、**スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携**し、迅速に解決を図る。
- 食育全体計画に基づき、望ましい食習慣を身に付けられるよう、組織的に食育を推進する。

イ 安全指導

- 全教職員・保護者で、視点を明確にした施設総点検**を年3回実施し、安全点検で挙げた危険箇所は迅速に修理・改善して、児童の安全な生活を確保する。
- 学校防災公園という地域に開かれた立地条件、校舎の構造についての**安全留意事項を確実に引き継ぐとともに、時代の変化に応じて児童が安心・安全に学校生活を送ることができる体制づくりを一層推進する。**
- 高学年児童による「学校安全隊」を組織し、児童の視点で危険箇所を発見させ、**児童自身が学校生活をより安全にしようという危機管理意識**をもって全校児童に働きかけて活動できるようにする。
- セーフティ教室、不審者対応訓練、自転車安全利用講習会、SNS学校ルールの策定と周知等を通して、**安全に対する実践的態度**を身に付けさせる。
- 現実的な想定での避難訓練、震災救援所訓練への参加、防災館見学等を通して、**地震の被害から自らの身を守る方法**について確実に身に付けさせる。

ウ キャリア教育

- ソーシャルスキルトレーニングを通して、児童一人一人にふさわしいキャリアを形成していくために必要な**人間関係形成能力、自己理解・自己管理能力**を育成する。
- キャリア・パスポートへの記録を蓄積することを通して新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりすることができるようにする。
- さまざまな職業の方と共に学ぶ機会を位置付け、**望ましい勤労観、職業観**を育成する。（主に第5学年）
- 中学校見学・体験授業を通して、これからの自分について考えることができるようにする。（主に第5・6学年）

(3) 特別支援教育

- 杉並区特別支援教育推進計画に基づき、**校内委員会を有効に機能させて**特別支援教育を推進する。個別指導計画・学校生活支援シートを適切に作成・活用するとともに、教育支援チームの巡回相談を活用する等、関係機関と連携し、**適切な支援体制**を構築する。
- 言語通級指導学級での体験学習や公開、学習支援教員による個別指導、副籍制度による交流及び共同学習、特別支援教室の理解・啓発に努め、**インクルーシブ教育を推進する。**

3 安心・安全で組織的な学校にするために

共に あたたく・きびしく かがやきの子を

【目指す教職員像】

大人も輝く学校

- ◎か 進んで考え、自分らしさを発揮しながら、周囲の人と共によりよい教育活動を創造しようとする教職員
 - が 教育目標の達成に向けて、一人で、そして周囲の人と共に力を尽くす教職員
 - や 人(児童・教職員・保護者・地域の方々)や環境(教育環境・自然環境)を大切にし、自分にできることを率先して行う教職員
 - き 健康管理をしながら、諦めずに粘り強く取り組む教職員
-
- 教育公務員として**サービスの厳正**に努め、常に全体の奉仕者である自覚をもって勤務にあたる。
 - 教育目標「かがやき」の達成に向けて、教職員同士はもちろん地域や保護者の人とも目標を共有して**共に取り組む**。
 - 児童の「安心・安全」を第一に考え、報告・連絡・相談を密にする。特にけがや事故・新型コロナウイルス対応・施設の不備・いじめ・不登校等については**迅速に情報を共有し、組織として適切に対応**する。
 - 学校安全計画・学校安全留意事項**の記載事項を学期1回全教職員で確認し、必ず守る。週ごとの指導計画に学習する場所と安全指導事項を記載する。
 - 体罰・不適切な指導は絶対に行わない**という強い意志をもって指導にあたる。
 - 学校経営計画に基づく校務分掌に則り、自らの果たすべき役割を責任をもって担い、**組織的な学校運営**を行う。
 - ライフワークバランスを意識して、**職務の効率化**を図り、働き方を改革する。